あの頃を伝える

髙山　葵
砂子　雅壽美
山路　美都
松岡　真央

兵庫県市区町別の被害

市区町名	死者(人)	不明者(人)	負傷者(人)	全壊(棟)	半壊(棟)	市区町名	死者(人)	不明者(人)	負傷者(人)	全壊(棟)	半壊(棟)
神戸市	4,564	2	14,678	61,800	51,125	小野市			3		
東灘区	1,469		3,383	13,687	5,538	加西市			1		
灘区	933		1,112	12,757	5,675	加東市			2		
中央区	243		3,782	6,344	6,641	多可町			0		
兵庫区	554		1,755	9,533	8,109	姫路市			2		1
長田区	919		532	15,521	8,282	市川町			0		
須磨区	399		637	7,696	5,608	福崎町			0		
垂水区	25		1,020	1,176	8,890	神河町			0		
西区	9		1,640	436	3,262	相生市			0		
北区	13		817	271	3,140	赤穂市			0		
尼崎市	49		7,145	5,688	36,002	宍粟市			0		
西宮市	1,126	1	6,386	20,667	14,597	たつの市			0		
芦屋市	443		3,175	3,915	3,571	太子町			0		
伊丹市	22		2,716	1,395	7,499	上郡町			0		
宝塚市	117		2,201	3,559	9,313	佐用町			0		
川西市	4		551	554	2,728	豊岡市			1		
三田市			23			養父市			0		
猪名川町			3			朝来市			0		
明石市	11		1,884	2,941	6,673	香美町			0		
加古川市	2		15		13	新温泉町			0		
高砂市	1		6		1	篠山市			0		
稲美町			11			丹波市			1		1
播磨町			1		11	洲本市	4		61	203	932
西脇市			0			南あわじ市			28	181	415
三木市	1		19	25	94	淡路市	58		1,177	3,076	3,976

神戸新聞NEXT 気象庁発表

阪神淡路大震災

1月17日午前5時46分。淡路から神戸、阪神間を大きな地震が襲った。震源の深さは16kmでマグニチュードは7.3

兵庫県で大地震が起きたのは、1963年に起きた越前岬沖地震以来、32年振りの出来事だった。

地震の威力は凄まじく、兵庫県から遠く離れた九州や関東にまで揺れが響いた。死者・行方不明者は全体で約50226人となった。

死亡者の多くは、倒壊した家に挟まれるなどの窒息死や圧死だということが分かっている。高齢者に被害が集中し、死亡者の約5割以上が高齢者の方だった。

兵庫県の全体被害総額は、約10兆円にまでのぼり、災害廃棄物は約1980tになり、兵庫県の一般廃棄物の約8年分に相当する。

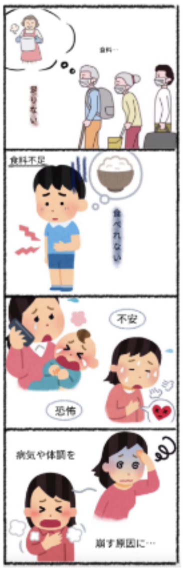
このような被害を報道でみた全国各地の人々が、ボランティアを結成し、延べ180万人もの人が兵庫県に希望の光をもたらした。阪神淡路大震災によって、ボランティア活動という概念が定着し、のちに1995年は「ボランティア元年」と呼ばれるようになった。

あの頃のことは一生忘れてはいけないものとなる。

髙山　葵

震災から6日目の1月23日では1153の施設に31万6678人が避難していた。それにも関わらず避難所には、わずかな食糧や物資しか届かなかった。物資・食料が不足したため、配給時に混乱が起きた避難所や避難者全員に行き渡らないため、届いた物資の配給を見合わせた避難所もあった。中には、できるだけ平等に配布しようと、わずかな食料を小分けして配ったり、弱者を優先にする工夫をした避難所もあった。

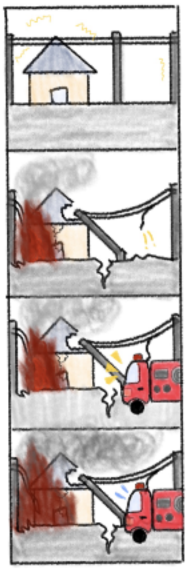
砂子　雅壽美


食料…
足りない
食料不足
食べれない
不安
恐怖
病気や体調を
崩す原因に…

地震後に火災が発生してしまったが、液状化現象が起こり、消防隊を呼んでも消防車が道を通れず、消火活動を行うことが困難だった。そのため、火が隣の建物に燃え移ったり瓦礫に燃え移ったりして、火災が次々と広まっていってしまった。

その中で、バケツに水を汲み、バケツリレーを行って消火活動を行ったところもある。

砂子　雅壽美



二次災害について

地震は一次災害と二次災害に大きく分けられる。一次被害とは、地震の揺れによりもたらされる被害のことを言う。

地震の一次被害には、家屋の倒壊や道路などの損害などが挙げられる。

二次災害とは、一次被害をきっかけに被害が連鎖して起こる災害現象のことを言う。

地震の二次被害には、火災・津波・停電・液状化現象・ライフラインの遮断・①心的被害・②クラッシュ症候群などが挙げられる。

・①心的被害の症状とは…

- 心的トラウマ（災害の体感　災害による被害　災害や被災者の目撃）
- 感情的コントロール（死別や負傷　罪責（自分だけが生き残った罪悪感））
- 社会や生活ストレス（避難所による集団生活）

などがある

・②クラッシュ症候群とは…

地震による家屋の倒壊が原因で車や家の瓦礫の重量物が体に長時間の圧迫がかかることで骨格筋の虚血や損傷圧迫の急な解除による再灌流が主な病態である。大事に到れば急性腎不全や高カリウム血症などを来し、死に至ることもある。

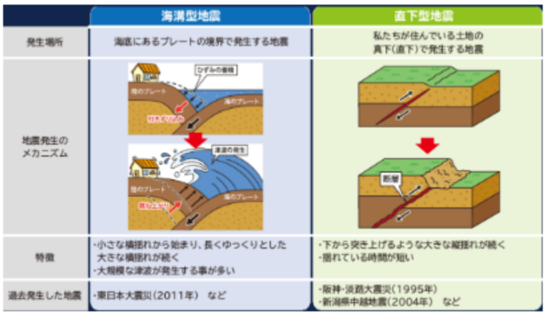
山路　美都

阪神淡路大震災の被害

阪神淡路大震災では、大地震の10日間後になっても、数件の火災が発生していた。それらの火災の中には、電気ストーブなど、電気器具を原因とするものもあったと言われている。停電していた地域で、電力供給の再開後に電気ストーブなどの器具に電気が通り、火元となったとされている。しかし、阪神淡路大震災が起こったのは真冬だったので、電気ストーブなどの暖房器具は欠かせないものだった。だからと言って、真冬の中暖房器具の使用を控えるのも無理があるのではないか。電気ストーブなどの近くには燃えるものを置かない、など対策をすれば大規模な火災を防ぐことができる。

さらに阪神淡路大震災は、過去に事例のない大規模な液状化現象をもたらした。多くの住宅が傾き、港湾施設軒並み被害を受けた。実際に東日本大震災のボランティア活動をした方の話を聞くと、液状化現象により地面が崩壊し、救助車両や自家用車が通れなくなっていたと言う。それにより、救助活動などが困難だった。その液状化現象で、地表にあふれ出てきた砂まじりの水や泥などは、ボランティア活動をしている人が手作業で処理をしたそうだ。このような二次災害があった中、幸運なことに津波は来なかった。その理由は、阪神淡路大震災は直下型地震だったからだ。直下型地震とは、人の住む地域に発生した地震のことで、震源地がその地域の真下にあるものを指す。一方で、津波の可能性がある地震のことを海溝型地震と言う。もし、阪神淡路大震災が海溝型地震だったなら、この実際に起こった直下型地震よりも被害が大きかった可能性が高い。この先何が起こるか分からないが、これまでに無い事例が起こる可能性もある。そのためには、一人一人の意識が大切だ。

山路　美都


ひずみの蓄積
陸のプレート
海のプレート
引きずり込み
津波の発生
跳ね上がり
断層

	海溝型地震	直下型地震
発生場所	海底にあるプレートの境界で発生する地震	私たちが住んでいる土地の真下(直下)で発生する地震
地震発生のメカニズム		
特徴	·小さな横揺れから始まり、長くゆっくりとした大きな横揺れが続く ·大規模な津波が発生する事が多い	·下から突き上げるような大きな縦揺れが続く ·揺れている時間が短い
過去発生した地震	·東日本大震災(2011年)　など	·阪神·淡路大震災(1995年) ·新潟県中越地震(2004年)　など

出典　文部科学省地震調査研究推進本部「日本は世界有数の「地震国」」

二次災害防止策

大地震が起きたらガスを使った道具の元栓を閉め、ブレーカーを落とし、安全なところに逃げる。周囲に誰もいない時は一人で避難行動をとることができそうかなどの状況の判断を行う。屋内にいる場合はガラスの欠片や家具の転倒に注意し、裸足では歩かない。指定避難所へ移動する場合は不要な物品を持たず、最低限の荷物を持つ。避難中は「落下事故」、電線の断線による「漏電事故」、避難者の密集による「群集事故」に気をつける。

二次災害に備える防犯グッズは防犯ブザー・ホイッスル・補助錠・防犯窓などがある。

避難所でのプライバシーを確保するのは難しく、大勢の人が体育館などの施設で寝泊まりするため、性犯罪や暴行・傷害事件などが発生するリスクが高い。そんな時に、防犯ブザーを手に持っているだけでも犯罪行為の抑止力になる。防犯ブザーは手に取りやすい場所に入れておくと良い。

ホイッスルは防犯ブザーと同様に抑止力になる。防犯ブザーとは違い、電池が無くても使用でき、災害時に強いという特徴がある。また、ホイッスル内部に氏名・住所・血液型などを記載したIDカードを格納できるため、怪我をした場合でも、救援者との迅速な情報共有ができる。

補助錠・防犯窓は避難中の空き巣対策に役立つ防犯グッズでもある。

補助錠・防犯窓を設置し、侵入までの時間をかけさせることで、空き巣があきらめる。住まいの防犯対策の基本は「ワンドアツーロック」だ。窓や玄関ドアに補助錠を取り付け避難中は空き巣に入られないようにする。

オフィス家具で発生するリスクを防ぐためにためには、オフィス家具を壁や天井につけて、壁や天井にアンカーボルトで固定する。上下二段式の家具は上下連結しておく。重心を下げるために重量のある収納物は、下に入れる。引き出しの飛び出し防止のためにセーフティロック付きのオフィス家具を選ぶと良い。家具を固定しておかないとストーブなどに転倒・落下し火災が発生する。

避難する際は火災の発生に気をつけ、避難障害の発生を防ぐため、出入り口周辺に物を置かないことが大切だ。

地震が発生したら安全を確保し、頭部の保護、机の下などへの避難時には、机の脚を両手でしっかりと押さえる。学校での火災など、二次災害防止のため、家庭科室のガス管理、理科室や保健室などの薬品管理に注意し、負傷者の確認をする。避難経路の安全確認をし、避難をする家族や小学校の場合でも人数確認をする。そして避難誘導や負傷者搬送などをする。避難後には人員の確認と応急処置、警察、消防、医療機関へ連絡する。小学校の場合児童生徒などの不安に対する対処をする。

火災が起きた場合は消火器を使い火を消す。

・消化器の使い方

安全ピン（黄色）を抜く。↓ホースを火元に向ける。↓レバーを強く握る。

・室内の場合

消火栓ボダクスの戸を開ける。↓消火栓ポンプの起動ボタンを押す。↓ホースを伸ばし放水バブルを開き、放水。

・消火器がない場合

バケツで水をくむ。↓反動をつけて水を遠くまで飛ばす。

バケツは交互に向かってリレーのようにすると効率が良くなる。

消化器などの使い方については、万が一の時に備え、あらかじめ覚えとくことが大切だ。そして、地域の避難訓練に積極的に参加することで、住民一人一人の意識を高めることができ、一人でも多くの命を救うことができる。万が一大規模な災害が起こったとしても、まずは自分自身の命を守ることを優先しなければならない。

松岡　真央

私たちにできること

最近は日本各地でも地震が起こっている。

2013年に起こった某地震では淡路付近を震源にする阪神淡路大震災と同じような地震であった。死者は出なかったが、重傷11人、軽傷24人の合わせて35人が負傷した。淡路市で8人、洲本市で7人など兵庫県内で26人、大阪府で5人という被害が出た。それに加えて淡路市の高齢男性が避難のため自宅の窓から飛び降りて骨折、明石市と福井県敦賀市で高齢女性がベッドから落ちて骨折するなどしている。他にもライフラインが遮断されたりなど生活にも影響があった。淡路市では住家全壊1棟・半壊32棟・一部破損2383棟、洲本市では住家全壊7棟・半壊67棟・一部破損4067棟、南あわじ市では住家半壊2棟・一部破損1806棟など、合計で住家全壊8棟・半壊101棟・一部破損8305棟。被害件数は、市内最大震度6弱の淡路市よりも市内最大震度5強かつ震央となった洲本市の方が多かった。淡路島は阪神・淡路大震災の際にも被害を受けている。

このような事例が出ているので、大地震や火災などの自然現象は人の力でくい止められなくても、災害による被害は自分たちの日頃の努力によって減らすことができます。

例えば、常に持ち歩ける防災グッズを常備しておく。部屋の総点検をしておく。地域の避難訓練に参加する。災害時の集合場所を決めておくなど、被害を少しでも小さくするために大きな力となるのは、自分の身は自分で守る。家族や地域で助け合うこと大切なのは、そのために今できること、しなければならない。

松岡　真央

この授業から得たこと

2018年に大阪北部が震源の地震が起こった。

この地震は私が初めて被災した大きな地震である。

震源が家の近くであったこともあり私の住んでいる所は震度5弱のいわゆる中型地震だった。

その日はたまたま学校の代休日だったため家族全員が家にいたことが不幸中の幸いだった。この地震で私の家は特に目立った被害を受けたわけでもなかった。しかし震源地の大阪では、家が倒壊したり人が亡くなったり大変なありさまだった。

今回のリビングライブラリーは、私にとってとても関心深かった。私が経験した大阪北部地震よりも大規模な阪神淡路大震災を実際に経験し、それに加えてその被害からまちの復興や被災者の心の復興などをやって遂げた講師の方の話を聞くことができた。私は地震などの災害を深く知ることに興味があるのでとても勉強になった授業だった。

私たちが日本にいる限り常に地震と隣り合わせの状態だ。いつ何が起こるか分からない状態であるからこそ常に地震のことを詳しくしり、災害対策を積極的に行う必要がある。

私は、この授業からとても大切なことを教わった。

学んだことを忘れずにしっかりと活かしていけたらいいなと思う。

髙山　葵